

「空港における自然災害対策に関する検討委員会」議事概要

【羽田空港の訓練について】

- 羽田空港において「A2-BCP」は概成していたが、今回、実際に訓練をやることで具体的に何をすべきか課題が見えたことから、関係者の理解が進んだ。
- 滞留者対応として、クリーン・エリアを開放するという発想は他空港でも参考になるのではないかと。他方、土産物売り場のスペースを滞留者対応のため確保する等、別の方法も考える必要があるのではないかと。
- 羽田空港全体の平面図上で、リアルタイムでどこにどの程度の滞留者がいるのか、が分かるようなシステムがあると視覚的にも理解が深まり良いのではないかと。監視カメラなど普段使用する機器を災害対応に活用することで実現できるのではないかと。

【空港における訓練全般について】

- 各出席者が情報を手短かに報告し、各組織にその情報を適切に流すことが重要ではないかと。また、総合対策本部において、情報を正確に管理することも必要である。多様な事業者が集まることから、日頃からのコミュニケーションも重要。
- 各出席者が互いの存在を瞬時に把握できるよう、防災服等を着用するのは良い。
- 適切な情報提供や事業者間連携について、普段できないことは災害時でもできない。日頃からしっかりと取り組んでおかないといけない。
- 訓練が形骸化してしまうのが一番の問題であり、よりリアリティのある訓練を実施することが必要である。バーチャルリアリティ技術を活用した訓練を取り入れることも検討したらどうか。
- 総合対策本部参集訓練については、参集者が本部に集まった時に瞬時に状況を把握することができるような工夫が必要ではないかと。一見しただけではどのような事態が発生しているのか把握できなかった。
- また、情報共有の方法として、ホワイトボードに記載するといった従来の方法のみならず、音声認識機能を使う等、ITの活用や電子化を進めていく必要があるのではないかと。
- 関係者の認識を共有することが重要であり、できる限り多くの関係者が訓練に参加することが大切である。
- 空港周辺地域の被災状況を把握するという点では、テレビ等のマスコミの情報をリアルタイムで共有することも有効である。また、道路や鉄道の情報については、事業者と協定を結ぶなどにより、リアルタイムに把握できないかと。

○災害時には、医療関係者との連携も課題であるため、訓練に参加いただくことを検討してはどうか。

【「A2-BCP」について】

○「A2-BCP」は策定することが目的ではなく、策定のプロセスを通じて何が当該空港のネックとなるのかを発見することにある。このため、常に更新していくことが重要。

○大規模空港と小規模空港とでは対応方法や課題が異なる。「A2-BCP策定指針」の検討にあたっては、その点を踏まえておくことが必要。

○海外事例によれば、地方自治体や自治体が管理する空港などにフォーマットを渡して地方自治体が作成し、実施したという結果をもらうよりも、何が問題であるかという状況を報告してもらう方が、効率的であるとの例がある。今後それぞれの空港でBCPを作成して実施されることになるが、モニタリングによるBCPの実効性の改善を検討してはどうか。